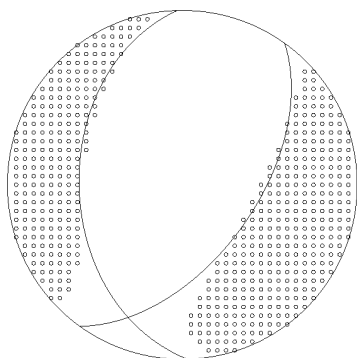


## 12月5日 南東インド洋海嶺の地震 (W-phase を用いたメカニズム解析)

### W-phase による解

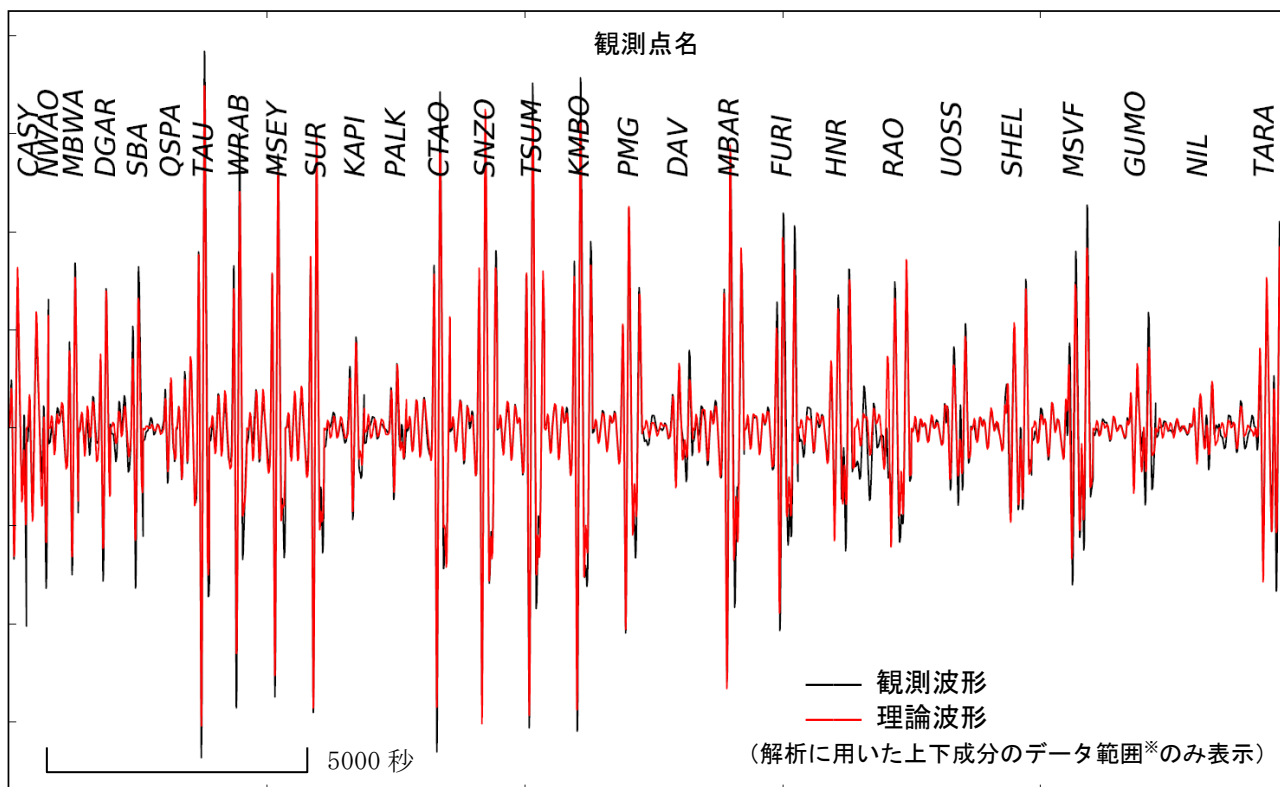


2015年12月5日07時25分(日本時間)に南東インド洋海嶺で発生した地震について W-phase を用いたメカニズム解析を行った。メカニズム、Mwとも、Global CMT などの他機関の解析結果とほぼ同様であり、Mw は 7.1 であった。なお、W-phase の解析で求めた震源は S47.6°、E85.2°、深さ 24km となった。

W-phase の解析では、震央距離 10° ~ 90° までの 28 観測点の上下成分、26 観測点の水平成分を用い、100~300 秒のフィルターを使用した。

注) W-phase とは P 波から S 波付近までの長周期の実体波を指す。

Mw	M <sub>0</sub>	断層面解 1 (走向/傾斜/すべり角)	断層面解 2 (走向/傾斜/すべり角)
7.1	5.78 × 10 <sup>19</sup> Nm	35.8° / 55.7° / -66.6°	178.3° / 40.6° / -120.2°



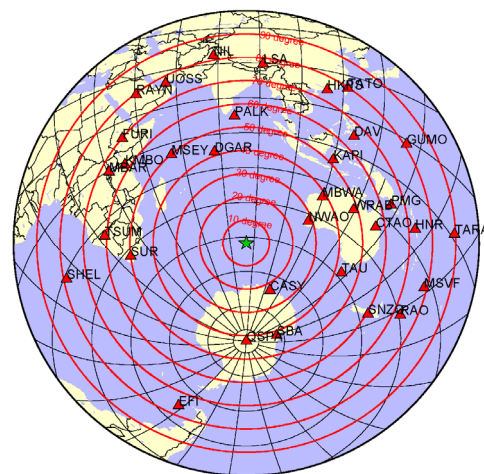
※解析に用いたデータの範囲は 15 秒×震央距離(度)としており、各々の観測点の解析区間のみを繋げた波形を表示している。

(W-phase に関する参考文献)

Kanamori, H and L. Rivera, 2008, Geophys. J. Int., **175**, 222-238.

解析データには IRIS-DMC より取得した広帯域地震波形記録を使用した。

また、解析には金森博士に頂いたプログラムを使用した。記して感謝する。



解析に使用した観測点配置

気象庁作成